

くまもと

404 号

日本郵趣協会
熊本支部会報
2025.8

航空切手

五重塔航空
(銭単位)



1951. 9. 1



1951. 9. 1



1951. 12. 20



1951. 12. 20



1951. 9. 1

※15. 00以外は銭単位は短命

(円単位)

みほん切手



1962. 4. 2



1952. 8. 11



1953. 7. 10



1952. 9. 1

コイル切手

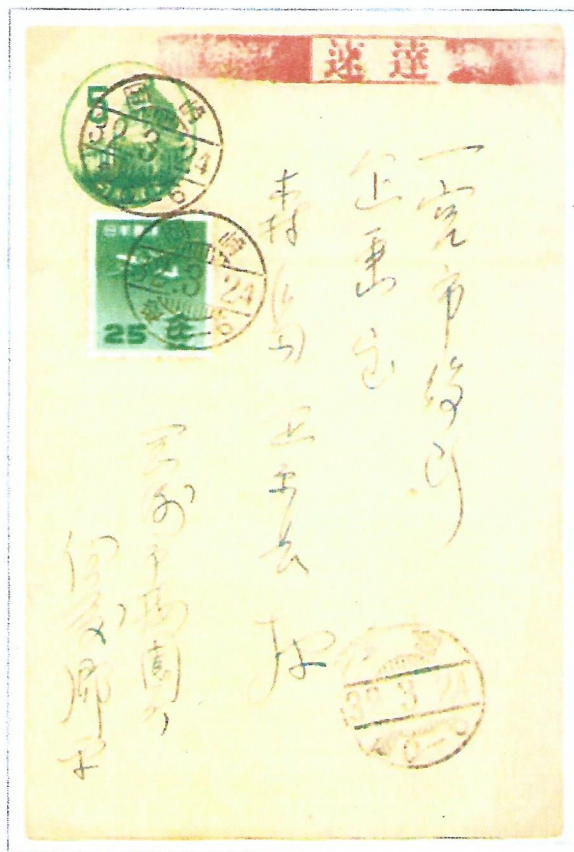


1953. 10. 29



1961. 10. 2

数時間で到着 →

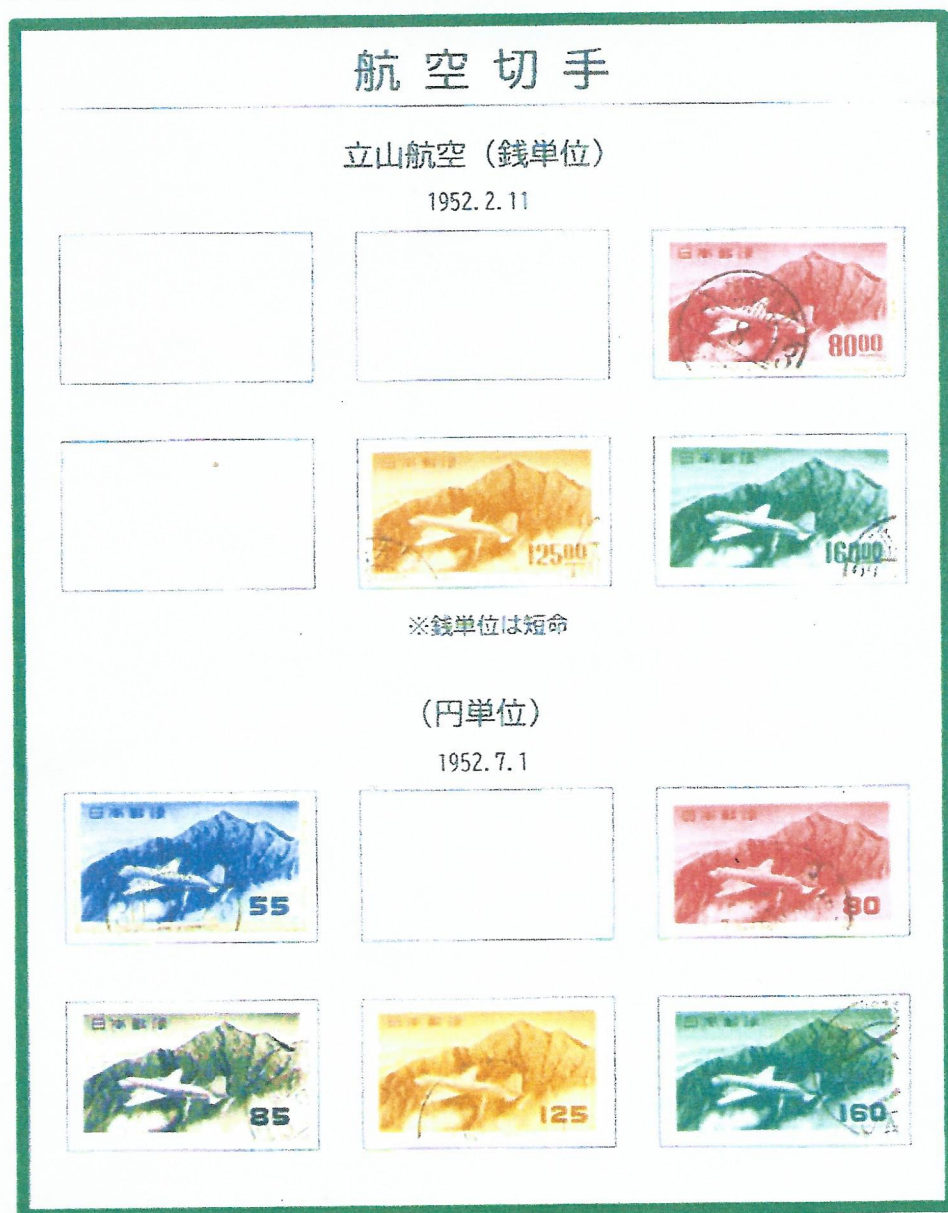


日本の航空切手は1929(昭和4)年に国内及び日韓間の郵便物を飛行機で素早く運ぶという「航空郵便用」として発行されたのが始まりです。

戦時中一時中断した後、終戦後に復活。その後国内用は速達郵便の制度改革に伴い廃止。外国用のみとなり、1961(昭和36)年を最後に発行を停止しました。

今回はその2タイプについて現在の収集状況をお話します。

1番目のリーフは五重塔航空の銭単位と円単位を並べたものです。五重塔25円を貼った速達葉書も入れています。引受印と到着印が同日の同時時間帯なので、発送から受け取りまで数時間だったと推察されます。



2番目のリーフは立山航空の銭単位と円単位を並べたものです。こちらは額面だけの表記変更で発行日はそれぞれ同一日になっています。今回整理して改めて気付いたことですが、銭単位から円単位への変更期間が短く感じました。

右の表は銭単位と円単位の発行日です。これでもわかるように、銭単位切手は五重塔の20円と30円は発

行期間が1年もなく、立山航空に至ってはすべてが4か月余りととても短いのがわかります。航空便は普通郵便に比べても数が少ない上に、実郵便や消印が良好な使用済となると極端に見つからなくなります。

最後のカバーは日本航空の南米線開設記念のFFCです。五重塔40円と立山75円を並べて貼ってあり、TOKYOAMF(東京中央郵便局空港分室)の欧文印が押印されています。

紹介したリーフにはまだ埋まっていないところがあります。これからの対応としてはこれを埋めることはもちろんですが、五重塔は楕型印、立山は欧文印で、最低でも局名と使用年がわかるものにしたいと思います。

銭単位と円単位の航空切手発行日

種類	額面	銭単位発行日	円単位発行日	銭単位発売期間
五重塔	15円	1951年9月1日	1962年4月2日	10年7か月1日間
	20円	1951年9月1日	1952年8月11日	11か月10日間
	25円	1951年12月20日	1953年7月10日	1年6か月21日間
	30円	1951年12月20日	1952年9月1日	8か月12日間
	同コイル		1961年10月2日	
立山	40円	1951年9月1日	1953年10月29日	2年1か月28日間
	55円	1952年2月11日	1952年7月1日	4か月20日間
	75円	1952年2月11日	1952年7月1日	4か月20日間
	80円	1952年2月11日	1952年7月1日	4か月20日間
	85円	1952年2月11日	1952年7月1日	4か月20日間
	125円	1952年2月11日	1952年7月1日	4か月20日間
	160円	1952年2月11日	1952年7月1日	4か月20日間

